

今日の説教のポイント<ルカによる福音書1章46-56節>

マリアが挙げた喜びの賛歌の内容は、ただ自分個人に与えられた恵みを喜び感謝するだけでなく、神様が全ての人に与えられる憐れみを確信してあげる喜びの声です。何がそうさせたのでしょうか？

①「私の魂は主を崇め、私の霊は救い主である神を喜び讃えます」(47)

「魂」と「霊」はここでは同じ意味です。要するに、「私」が心の底から神様に感謝し、喜んでいるのです。また、原文では「私の」が「救い主である神を」にも付いています。すなわち、「私の救い主である神を」です。マリアは叫びたいのです、「私が、私の、神を喜び感謝しているのだ！」と。信仰とは、この「私の神」の発見です。

②「今から後、いつの世の人も、私を幸いな者というでしょう、力ある方が、私に偉大なことをなさいましたから」(48-49)

マリア自身は、別段、私たちとそんなに変わらないということは先週お話ししました。マリアに優れている点があるとすれば、「神様がなさろうと思えば、何でもなさることができるのだ」ということに気づき、それを信じて歩み始めた点です。だとするなら、私たちが同じ歩みをなす時、私たちも「幸いな者」と呼ばれる者になるということです。この後マリアが語る内容が自分個人に与えられた恵みに留まるのではなく、この世界になして下さる神様の憐れみの業を確信して拡がっていくのはそのためです。主イエスを裏切ったユダが私たちと関係ないのでなくむしろ私たちの代表であるように、マリアもまた、この神様を信じて生きて行こうとする時の私たちの代表なのです！ 自分や他の人間に目をやるのではなく、神様のこのこと、「神様がなさろうと思えば、何でもなさることができるのだ」に目を向けて生き出す時に、今はまだ色んな問題に満ちた自分や世界であろうとも、その先に待っている神様の業を思いながら、あたかもその救いの業が既になされたかのような思いを持って、悲観せずに歩んで行けるようになるのです！

原発事故の今後の影響は測り知れません。しかし、私たちが私利私欲に捕らわれず、世界はこの神様の世界であることを思い、神様が良しとされる道を歩み行くならば、必ず道は備えられて行くのです。